

鴻ノ池運動公園(奈良市、ロート奈良鴻ノ池パーク)に4月、また新しい建物が完成した。「ランステーション」である。施設は市民の健康増進やスポーツトレーニングで使用するための更衣室、手荷物預かりロッカー、シャワー、トイレなどが備わって、周辺を利用する人たちにとっても極めて便利な施設である(有料)。ここ数年競技場周辺を使用する人が増え、週末には多くの市民の憩いの広場としてにぎわっている。

思い起こせば2008年、ここ鴻ノ池運動公園には競技場と並んで青年の家があった。市民の文化活動の拠点で通称「交楽館」と呼ばれて、吹奏楽・合唱・生花・俳句など市民のク

スタジアムからボールパークへ

クラブ活動の拠点として活用されていた。わが「ならスポーツクラブ」もここを拠点に定期的に活用してきた。

ところが07年、市は行財政改革推進に関する建議において廃止を決定した。廃止が決まっただけでなく空館のままだった建物は10年

mダッシュ王選手権大会はこの地に根付いて成長している。今年15回を迎えたmダッシュ王選手権in奈良は、記念の大会として北京オリンピック銀メダリスト朝原宣治氏をゲストに招いて盛会に開催された。12月には趣向を凝らして奈良マラソン

の、平城京遷都1300年の記念事業として開催する奈良マラソンの事務局としても使用された。またスポーツクラブが進める50mダッシュ王の計画もここが拠点となった。

10年、施設は取り壊され、跡地は駐車場として活用されているが、ここで誕生した奈良マラソン、そして50

「プロと地域」が一体に

スポーツ施設は単にスポーツをするだけの施設でなく、広く市民の広域交流拠点として発展している。

例えばプロ野球北海道日本ハムファイターズの本拠地エスコンフィールドHOKKAIDOは、競技重視の意味合いの強いスタジアムでなく、エンターテインメント性を重視する「ボールパーク」として位置づけられている。アメリカの野球場も同様で、入場券以外の収入で潤っているらしい。いずれにしてもこれからのスポーツ施設は競技だけの施設でなく、市民の憩いの場所としてにぎわうところとなっていくと考え

が15回目が開催される。近年、鴻ノ池運動公園は次々と改装されて、施設は充実しつつある。プロスポーツのサッカー奈良クラブ、バスケットボールのパンビジャ奈良のホームとしても使用されて多くの市民が足を運んでいる。

話は変わるが、昨今

られる。

競技施設が過分の税金で建設されて、税金で賄われる現状に限界が来るのは当然のことである。この改善にはスポーツをする団体が、自ら努力して資金を稼がねばならない。

社会が進化する中

で、プロのスポーツに期待がかけられるのは自然な流れ。鴻ノ池運動公園にもスポーツが育って、地域が一体となったスポーツクラブの誕生する日を夢見ながらの毎日である。

第4土曜日掲載



北京オリンピック銀メダリストの朝原宣治さん(中央)をゲストに招いて盛会に開催された50mダッシュ王。5月6日、奈良市のロートフィールド奈良(筆者提供)